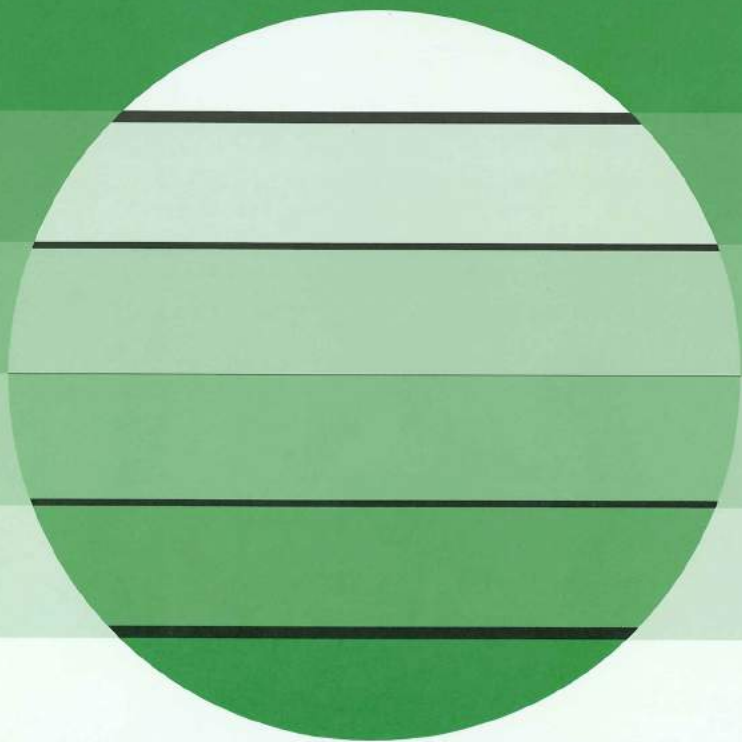


CSデザイン

学 生 賞

2 0 0 4

www.design-awards.jp



CSデザイン
学生賞
2004

● 工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン ● 星田のビジュアルデザイン ● 自由課題



審査員講評



新しい可能性

永井一正

CSデザイン学生賞は、この賞への応募を通して環境デザインを考える機会を学生時代から持つことを願って企画された。それが都市環境のごく一部である工事現場仮囲いと、車両のビジュアルデザインに限定されているとしても、そして自由課題を通して、新たに加わるデザインが環境にとって意義深いものになることが理解できると思う。

今回の応募作品はやや玉石混濁の感があったが、選考に残り受賞したデザインはそれぞれ学生らしい自由な発想で水準の高いものであった。最も感心したのは金賞になった桑沢デザイン研究所の宮川清志の工事現場仮囲いのデザインであった。白地に色々な発言が書いてあるが、その空間とタイポグラフィのレイアウトがおしゃれで美しい。恐らく何が書いてあるのかと近寄って読むことになると思うが、それが日常的なさりげない会話やつぶやきであるが、とても心が和み、興味深い。その文字がその場所ごとに変化し、また工事期間中にも変わっていくという発想が素晴らしい。その場所を通りながら読むことが楽しみになるに違いない。

部門賞になった筑波大学の金田紗季の仮囲いも着想が良い。恐竜が実寸大の線画で描かれておりそれ等が重なることにより、その大きさを実感することが出来ると共に、小さくシルエットで並べられた恐竜の名前などの知識を得る楽しみも加わり、興味を持つ人が多いと思う。

万葉線車両のビジュアルデザイン部門賞の国立高岡短期大学の森井美紅はブルーの濃淡による四角形の重なりがリズムカルで窓のガラス面とも良く調和し、川面が太陽の光でキラキラ輝くような明るい光を感じさせる秀作であった。これが実際に走り、それに乗るであろう森井さんの嬉しそうな顔が想像できる。

自由課題佳作の横浜美術短期大学の品川菜紀は黒のカッティングシートを貼ったボックスにリズムカルな穴を開け蛍光灯の光を通して光の美しさを表現しているが、今後この手法を展開することにより色々な可能性が生まれてくると思う。

(グラフィックデザイナー)

金賞

工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン

こんな所から一言！

朝の東ない夜はない！！

なんちゃって（照）

今、だいたい何時ぐらいですか？

あれっ？

さっき見ましたよ！

ビルが建つんですよ！

あの大きな交差点の所にオシャレ〜で美味しいカフェ

完成したら遊びに来て下さいね！

あ〜履き疲れたな〜

（笑）

ニヤ〜

その靴カッコイイですねー！！



えっー！！

こんな所まで見られるの?? (悲)

雨の日もこうやって立ってるんです。(涙)

あるんですよ！！

あっ、どうも、どうも

御買物ですか?

イイナー

— 1.8 m

— 1.6 m

— 1.4 m

— 1.2 m

— 1.0 m

— 0.8 m

— 0.6 m

あっ！！たばこのボーイ捨ては駄目ですよ～！

背くらべ♪ (楽)

ちなみに僕は4m！！

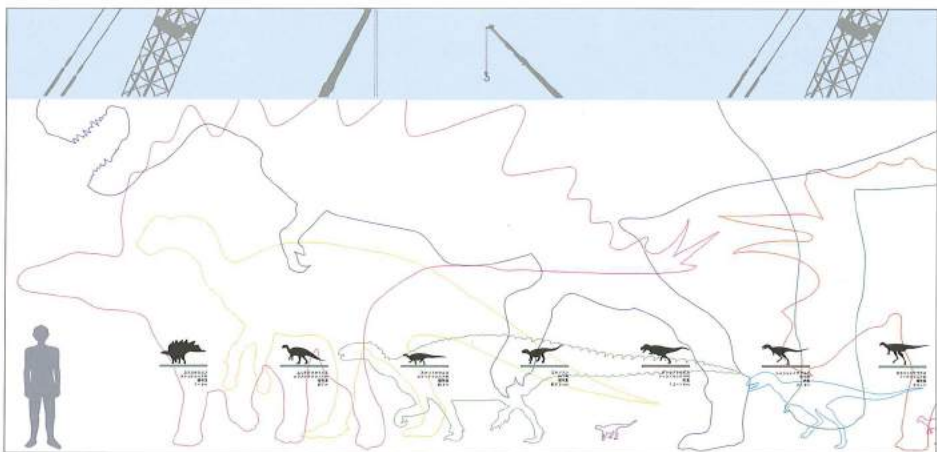
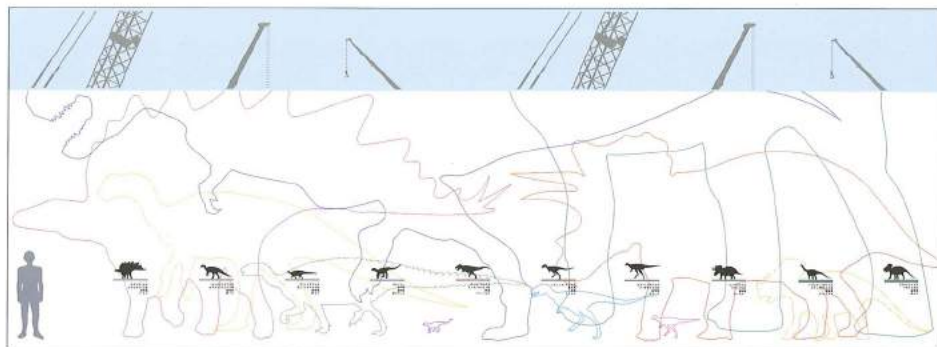
えー！！もう行っちゃうの！！！！

ワンチャン発見！！

わん！

部門1 工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン

部門賞



全賞

宮川清志/桑沢デザイン研究所 デザイン専攻科専攻
工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン

作品コンセプト

コンセプトは場所性と参加、そして発生です。

書いている文字はその場所ごとに変化し、工事期間中に変わっていく。その街の小言のような、今は少なくなった地域の掲示板のような物になればいいと思う。

重要なのは見る、参加する、そして感じ、そこからそれぞれの人がまた違ったアプローチを投げかける。囲いの中でも何かが生まれるわけですから、その外側にも何かが生まれ、その街が活気づくような、そこを通るのが楽しくなるような物になればいいと思います。

部門1 部門賞

金田紗季/筑波大学 視覚伝達デザイン専攻

作品コンセプト

今や人や物であふれている都会も、かつては恐竜たちが栄えていた。

絶滅した恐竜を実寸大で描くことで、工事現場の危険性を知らせると共に、歩いている人にその大きさを体感する楽しみ、知らないことを発見する楽しみを与えたいと思った。

このデザインは仮囲いの高さを4m、人の身長を約150cmと想定して描いてある。1つ1つの恐竜には視線の高さに、全体像や、恐竜の名前などの簡単な説明書きを加えることで、美的のみならず、知的にも私たちを楽しませてくれるようにデザインした。

仮囲いデザインの進め方

菊竹 雪

仮囲いデザインを考えると、まずは身近で見つけた工事現場を実際に訪ねて頂きたい。そこで仮囲いの壁や工事現場周辺環境を体感し、そこから表現を考えてもらいたい。

一般的に使用される工事現場の仮囲いは、巾50cm、高さ3mの白いフラットパネルを横に連続して連結させ壁面をつくる。「3mの白い壁」である。回りを見渡すと、仮囲いで使われる、目に眩しいほどつやつやした白色は景観の中でほとんど見当たらない。すでにその白色自体で目を惹く仮囲いのグラフィックデザインを考えると、刺激的な白色をアイデアの中で上手く活かすことからはじめてもら

いたいと思う。机の上で作業していると、仮囲いは無彩色の背景でしかない。しかし現実の工事現場は景観の中にあり、その中で白色の仮囲いがどう見えるかをきちんと想定して考える必要がある。

他にも工事現場を訪ねれば、3mの壁の実際のボリューム感やパネルのディテールが分かる。また仮囲いが風景の中でどう見えるか、側を歩いて見た時、少し離れたところから眺めた時など色々な角度から観察してもらいたい。日頃日常の景色の中で目にしていた仮囲いから新たに気づくことがたくさんあるはず。そういった体験を踏まえた上で、その仮囲い

を想定してデザインを考えてほしい。そこで重要なことは平面だけで考えないこと。用紙を折り曲げて壁の部分を垂直に立ててみる。そうすると全く違う作品として見えてくるはずだ。仮囲い上は平面であっても壁自体が立体であることを忘れないでいてもらいたい。

仮囲い同様に車両デザインもその表現を考える過程は全く同じである。実際の物や場所が与えてくれる情報を感覚的に察知し、それらを整理していく作業が環境デザインの基本であると思う。CSデザイン賞が学生にとって、環境デザインの基本姿勢を踏襲して表現を考える機会となってくれることを望んでいる。

デザインは最終的な定着がすべて

工藤青石

大賞受賞作品は、様々な図像が展開される多くの作品の中にあって、ひときわひっそりとしていることが、かえって存在を際立たせていました。そこに書かれている文字を読んでもみると、何やら街行く人のつぶやきや、格言めいた言葉などが記載されており、通りかかった人の何人かがメッセージを受け取り、それによって人々の間にコミュニケーションが生まれてゆくような情景が目に見えました。一方的に情報を発信するのではなく、コミュニケーションを生み出すような気持ちを感じたのです。後に作者のコメントを読み「コンセプトは場所性と参加」との記述に納得しました。更に「文字はその場所や期間によって変化

してゆく」とありました。課題を単に「スタイリッシュな白い壁」と捉えるのではなく、「現実空間に存在するメディア」と意識している点を評価したいと思います。一つの物事をどのように捉えるかということは、デザインをする上で、最も大切なことの一つだと思います。仮囲い金賞の作品はスケールと状況設定を充分に生かし、エンターテインメント性を持ちながらも知的な好奇心に訴えるという高級なアプローチだと感じます。画面の外側まで取り込んでしまう構成が空間に更に大きなスケール感を与え、それが作品の質を高めています。

車両部門の金賞は大変素直な作品です。作者が地元で、実際の車両を日常的に見て

いるリアルな感覚が、ちょっとしたバランスや色の選択に結びつき、良い結果を導いたのではないかと感じます。

全体を通して気になったことは、色彩や文字、レイアウトに対して、デリケートに神経を使っていると感じられる作品があまりなかったことです。アイデアやコンセプトはもちろん大切ですが、デザインという視点で考えた場合、最終的な定着が全てとも言えます。それは、一見まとまりよく出来てしまうコンピューターデータによる作品が大半を占めていることと関係性が深いように感じています。

CSデザイン学生賞2004審査会を終えて

佐藤 卓

今年の審査会を終えての感想は、前回に比べるとややアイデアのある作品が少なかったということである。工事現場の仮囲いが、ひとつのコミュニケーションのメディアとして発見されてから、しばらくの時間が経って、実際に世の中でよく見かけるようになり、逆に今はあたりまえのメディアになりつつある。新しいメディアの発見は、最初は多くのアイデアを生む。しかしその後が実は重要なのである。あたりまえになった時、つまり世の中に根付いてからどのような状況に至っているかを、よく検証する必要がある。今回の審査会では、仮囲いはこんな程度のものだろうという論議的印象の作品を多く見かけた。既存のものや環境にどれだけ疑問を投げかけられるか。そ

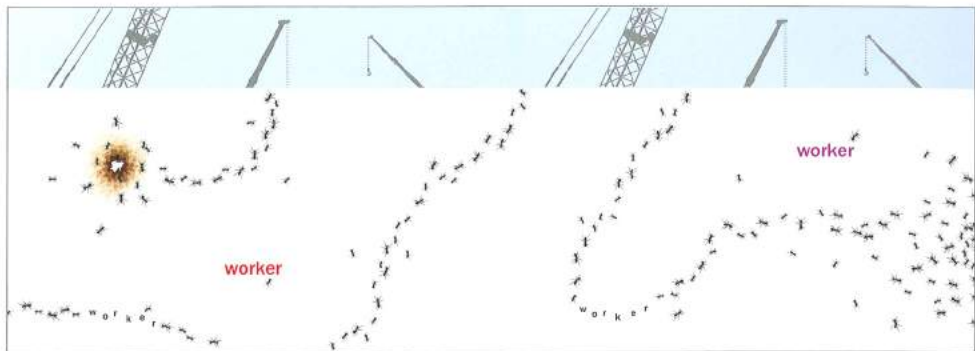
れが新しい考え方を生み、新しい表現を生む源である。

今回、金賞に輝いた宮川清志さんの作品は、全員一致で決定に至った。力強く訴えかけるのではなく、見る人を引き寄せる視点が新しい。そして、それが結果的に街を汚さない仮囲いのビジュアルにもなっている。力でおねじ伏せる作品とは明らかに違うアプローチが新鮮だった。

部門賞・金田紗季さんの作品は、我々と同じ地面にかつて生きていた恐竜を、地面を掘りおこす工事現場のモチーフにしたところが面白い。道端で遠い過去に思いを馳せる瞬間があってもいい。アウトラインをもっと丁寧に描くと更によかったと思う。

佳作に選ばれた作品は、アイデアはいわゆる表現力が伴っていないところがいまひとつ説得力に欠けた。アイデアをどのように定着させるかが重要で、アイデアというものは、実は素人でも出るのである。それを、どう仕上げるかがクリエイターに求められる。今後に期待したい。

万葉線のビジュアルは部門賞・森井美紅さんのものがやはり全員一致で決定。透明感のあるビジュアル表現が電車の形を消している。この電車が現地を走るとすれば、作者はぜひ現地へ行って地域の人たちの感想を聞いたほうがいい。



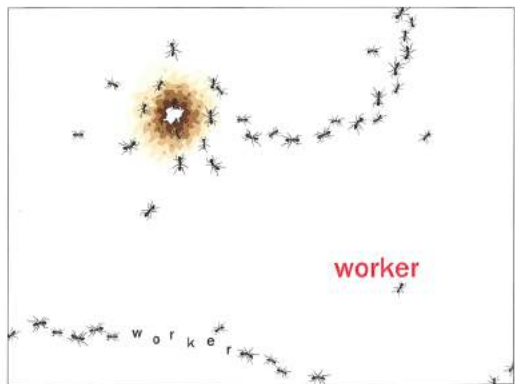
1

1・2 佳作

河村仁美/筑波大学 芸術専門学群 視覚伝達デザイン専攻

作品コンセプト

工事現場は建物、家などが出入りする場所をつくりあげるところということから、アリが巣をつくるイメージが浮かんだ。アリ（働きアリ＝worker）たちがフェンスの内側に、穴を通じて行き交い働いている姿を表現してみた。また、閉ざされた空間と外をつなぐという意味もある。中が見えないということは、そこで働いている人の姿も私たちは目にすることができない。私たちが生活する場をつくらしている人たちがアリの姿に変身して、外と内を出入りしている感じが伝わればよいと思う。



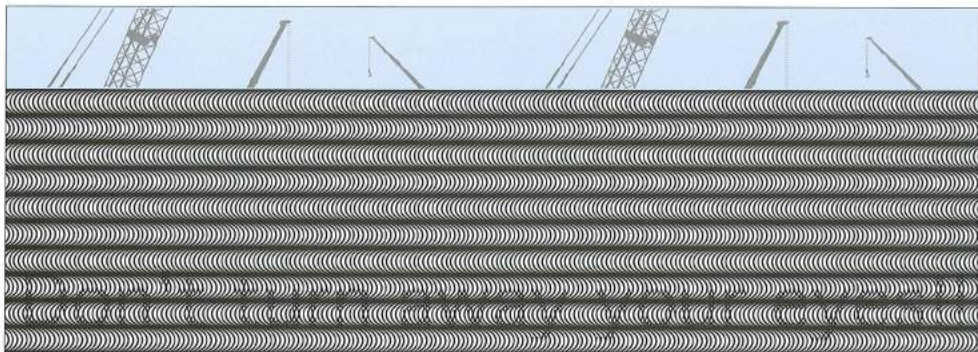
2

3 佳作

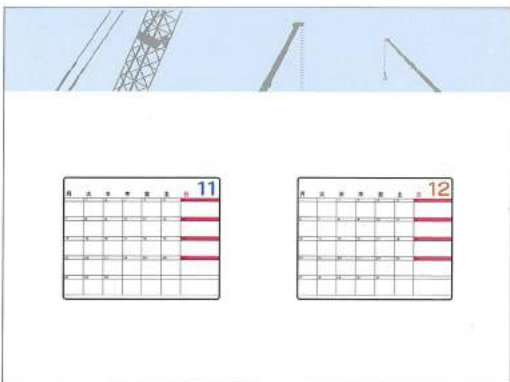
家辺利行/大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン領域専攻

作品コンセプト

人に危険を伝える手段には2つの方法がある。1つは文字やイラストを使ってストレートに伝えるということ。2つ目は見た人が直視できないものを目の前に置くことだ。知能の発達した動物は物事を判断する時、視覚から多くの情報を得て判断する。このデザインは遠くから見ると普通に文字が見えるが、近くで見ると視覚効果によって直視できなくなる。このことにより「この先は危険だ」ということが少しでも伝わると思う。



3



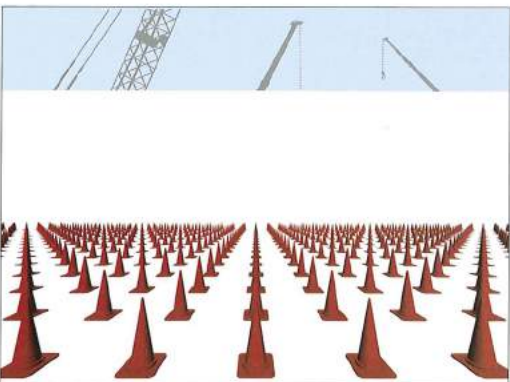
4

4 佳作

向笠千春 / 静岡デザイン専門学校
グラフィックデザイン科 デジタルコース専攻

作品コンセプト

工事現場を道行く人々に役立ててもらおうと、自由に書き込めるカレンダーのビジュアルにしました。
コミュニケーションの場になるといいな~と思いました。



5

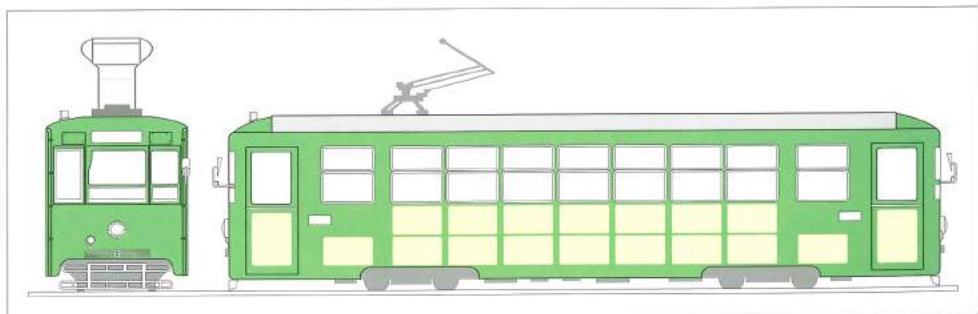
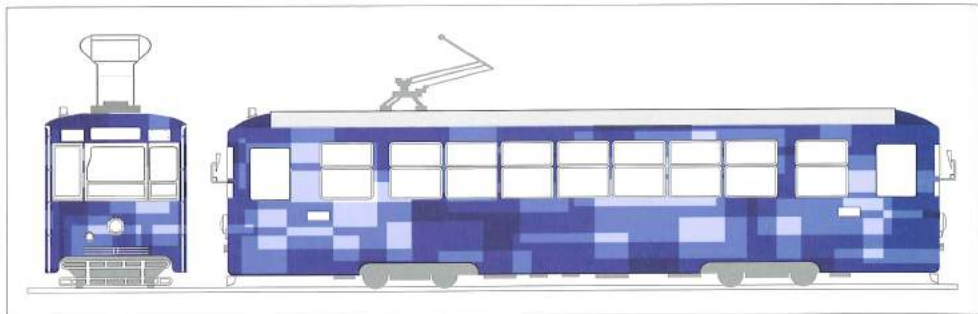
5 佳作

今井 圭 / 東京理科大学 大学院 建築学専攻

作品コンセプト

「Under "Cone"-struction」
(アンダー"コーン"ストラクション)

工事現場前の路上に必ずある赤いカラーコーンが連続する風景。
本物のカラーコーンが仮囲いへと続いているようにも、仮囲いからカラーコーンが飛び出てきたようにも見える。
工事現場前の道路と仮囲いに空間的な興行きが生まれる。



2

1 部門2 部門賞

森井美紅/国立高岡短期大学 産業デザイン学科専攻

作品コンセプト

このデザインのテーマは「光」です。日本の不景気で活気がなくなりつつあるこの町に、元気な光を…！明るい光を…！という思いを込めてデザインしました。

万葉線が走ることによって、また万葉線を見ることによって、少しでも気持ちが元気になったり、明るくなったらいな、という気持ちを込めています。

2 部門2 佳作(共同制作)

杉浦伸康/広告デザイン専門学校 広告デザイン科

グラフィックデザイン専攻

岡田照憲/広告デザイン専門学校 広告デザイン科

広告表現コピーライティング専攻

杉村啓史/広告デザイン専門学校 広告デザイン科

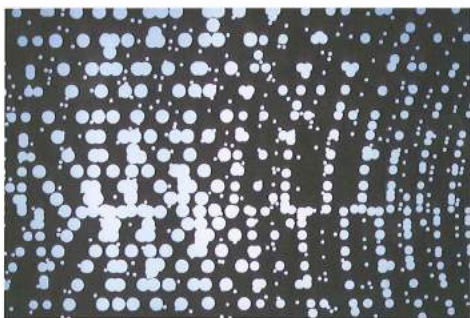
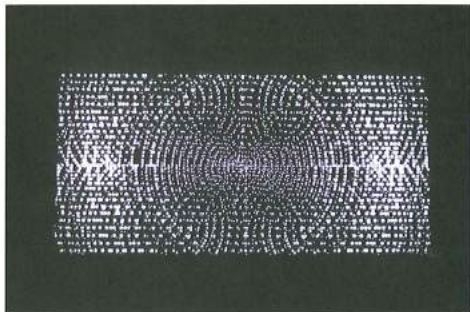
広告表現コピーライティング専攻

作品コンセプト

「まちの掲示板」

グリーンをバックに薄黄色の掲示スペースを配し、沿線の小学校・幼稚園などの児童に絵を描いてもらったカットティングシートを貼付することを想定しました。

さわやかで楽しい気分を、通勤などで万葉線を利用する方々に感じてほしいと思います。



部門3 佳作

品川菜紀/横浜美術短期大学 造形美術科 デザイン専攻

作品タイトル「光」

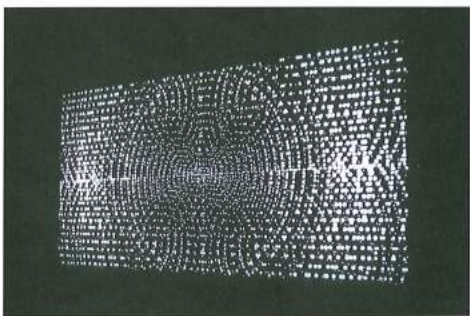
作品コンセプト

光を通さないものに穴(点)をあけ、光を通すことによって、光本来の美しさを表現した。

大きさ150(厚さ)×900(縦)×1800(横)ミリのBoxを組み立て、中に蛍光灯を7本仕込み、半乳の亚克力板でふたをし、ライトBoxを作った。そして穴をあけた黒色のカットティングシートを貼った。

穴の並べ方はある一定のパターンを作り、それに沿って配列した。そのことによってより美しい見え、また人間の心理にある「飽き」をなくす効果をねらっている。配列の仕方(円の組み合わせ)に対してのBoxの形、穴の大きさで光の広がりも出せるようにした。

見てくれた人がこの空間で何かしらの感情、光を感じてくれたらと思う。



■ 審査員プロフィール ■



永井一正

1929年大阪生まれ。1951年東京芸術大学彫刻科中退、大和紡績を経て、1960年日本デザインセンター創立とともに参加、同代表取締役を経て、現在、最高顧問。

主な仕事：札幌全季オリンピック1972、沖縄海洋博1975など国際イベントの公式マークデザインが指名コンペにより正式採用される。諸団体のシンボルマーク、各種企業のCIデザインを多数手がける。

受賞：日宣美会員賞(1966)、朝日広告賞、東京国際版画ビエンナーレ展東京国立近代美術館賞(1968)、日本宣伝賞山名賞、毎日デザイン賞(1983)、東京ADC会員賞・会員最高賞(1992)、毎日芸術賞、芸術選奨文部大臣賞(1988)、通産大臣デザイン功労者表彰(1995)、竜倉雄策賞(2000)、傍見勝賞(2003)。海外では第1回ワルシャワ国際ホスタービエンナーレ金賞(1966)をはじめ同銀賞・芸術アカデミー名賞賞、フルノ国際グラフィックデザインビエンナーレ金賞・グランプリ(1988)、第1回モスクワ国際ホスタービエンナーレグランプリ(1992)、メキシコ国際ホスタービエンナーレ第1位、ヘルシンキ、ザグレブ、ウクライナ、ホントンの国際展グランプリ。紫綬褒章(1988)、勲四等旭日小授賞(1999)。

展覧会：富山県立近代美術館、ワルシャワ近代美術館ホスター館、東京国立近代美術館フィルムセンターなどで個展。

作品が東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、富山県立近代美術館、姫路市立美術館、ニューヨーク近代美術館、ドイツ国立抽象美術館などにパーマネントコレクション。

著書：「アートディレクション」(美術出版社)、「永井一正のポスター」(河出書房新社)、「永井一正の世界」(講談社)、「永井一正デザインライフ」(六耀社)。

会員：JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会(理事)、日本デザインコミッティー(理事長)、東京ADC(東京アートディレクターズクラブ)、AGI(L'Alliance Graphique-Internationale(仏))。



菊竹 雪

1958年東京生まれ。

1981年日本女子大学住居学科卒業。

(株)日本デザインセンターを経て、

1990年(株)コンパシ設立。

1994～95年文化庁派遣芸術家在外研修員として、

英国Royal College of Arts在籍。

法政大学工学部建築学科講師。

主な仕事：講談社、原宿T's, YM Square Harajuku、島根県立美術館、江戸東京博物館、イタリア文化会館などの工事現場仮囲いデザイン。ほかに札幌JRタワーの駐車場屋根のネットワーク、東京電力リノベーション集合住宅の外観デザインなど。

受賞：日本サインデザイン大賞、JCDデザイン賞、日本ディスプレイデザイン賞、通産商業大臣賞、CSデザイン大賞、JAGDA新人賞、ニューヨークADC銀賞など。

会員：JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会、AACAA(社)日本建築美術工芸協会。



佐藤 卓

1955年東京生まれ。

1979年東京芸術大学デザイン科卒業。

1981年同大学院修了。(株)電通を経て、

1984年佐藤卓デザイン事務所を設立。

主な仕事：グラフィックデザインを中心に、「ニッカ・ビュアモルト」「ロッテ・クールミントガム」「ロッテ・キシリトールガム」「PMK スキンケアシリーズ」「明治おいしい牛乳」などの商品デザイン。

ほかに「TOYOTA・VISTA」「BS朝日」などのVIデザイン、NHK子供番組「ほんごであそび」のアートディレクション、大量生産品をデザインの視点で解剖する「デザインの解剖」プロジェクトなど。

受賞：東京ADC賞、毎日デザイン賞、JAGDA新人賞、東京TDC銀賞、ニューヨークADC銀賞、日本パッケージデザイン大賞金賞、Gマーク金賞、デザインフォーラム金賞、東京ADC・原弘賞など。

著書：「SKELETON」(六耀社)、「デザインの解剖①＝ロッテ・キシリトールガム」「デザインの解剖②＝フジフィルム・写ルンです」「デザインの解剖③＝タカラ・リカちゃん」「デザインの解剖④＝明治乳業・おいしい牛乳」(美術出版社)。

会員：東京ADC(東京アートディレクターズクラブ)、東京TDC(東京タイポディレクターズクラブ)、JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会、日本デザインコミッティー、AGI(L'Alliance Graphique-Internationale(仏))。



工藤青石

1964年東京生まれ。

1988年東京芸術大学卒業、資生堂入社。

1992年から4年間の同社バリ勤務を経て、

現在資生堂宣伝部アートディレクター。

東京藝術大学非常勤講師。

プロダクト、パッケージ、空間をコミュニケーションのメディアと捉え独自の視点でデザインを行う。

主な仕事：Shiseido Men, Shiseido The Makeup, IPSAブランドのプロダクト、パッケージデザイン及びアートディレクション。qjoraブランドのクリエイティブディレクション、商品及びニューヨークショップのデザイン。銀座「HOUSE OF SHISEIDO」では「アーカイブテーブル」というインタラクティブな装置をデザインした。

受賞：毎日デザイン賞(2001)、米国建築家協会NewYork最優秀デザイン賞(2001)、ID AWARD(2001)、東京ADC賞(1998、1999)、日本パッケージデザイン大賞(1995、1999、2001)、ディスプレイデザイン賞(1993～2001、1992は大賞)、SDA賞(1997～2001)、CSデザイン賞大賞(1998、2000)、JAGDA新人賞、ニューヨークADC銀賞など。

会員：東京ADC(東京アートディレクターズクラブ)、JAGDA(社)日本グラフィックデザイナー協会、JPDA(社)日本パッケージデザイン協会。

CSデザイン学生賞2004 [募集要項]

「色を通じて社会貢献したい」と願う中川ケミカルが豊かな環境づくりを目的にCSデザイン賞を行ってきました。同賞に合わせCSデザイン学生賞を設けて、学生作品を広く募集します。

募集作品

装飾用粘着シート（カッティングシートCS200・NOCSノックス）を使用することを前提としたデザインとします。

- (1)工事現場用仮囲いのビジュアル・デザイン
- (2)車両のビジュアル・デザイン…市電「万葉線」（高山県高岡市・新湊市）
- (3)自由課題（平面・立体を問わず実験的な作品）

審査の方法

- (1)(2)は、規定のデザインフォーマットの上に作画した「デザイン」の審査とします。
- (3)は、特に規定はありません。

応募資格 応募期間中に、在学の方に限ります。

応募の方法

応募は、Webサイト「CSデザイン学生賞(www.design-awards.jp)」に掲載されている応募要項にもとづき、必要事項を添付して、データ送信または郵送（フロッピー、手書き作品）して下さい。

- 作品形態 規定のデザインフォーマットに準じたデータ、またはA3判の用紙とします。

作品のサイズは、1作品についてA3判2枚横つなぎを最大とします。

- 表現方法 グラフィックソフトによる作画、または手書きの作画。
(1)(2)はWebサイト(www.design-awards.jp)上に掲載されているフォーマットをダウンロードしてください。
グラフィックソフトはアドビ社の〈Illustrator 7.0〉〈Photoshop 4.0〉以上とします。

- 色指定 CS200及びNOCSによる色指定とします。
シート色による着色ができるカラーパレット・ソフト(CS200・NOCS)を無償提供します。
シートの色見本が必要な場合は、お送りします。

審査員（敬称略）

永井一正（審査委員長） 菊竹 雪 工藤青石 佐藤 卓

協賛 日経デザイン

協力 万葉線株式会社

後援団体（順不同）

社団法人 日本グラフィックデザイナー協会

社団法人 日本商環境設計家協会

社団法人 日本サインデザイン協会

社団法人 全日本屋外広告業団体連合会

社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会

社団法人 日本ディスプレイデザイン協会

NPO法人 日本タイポグラフィ協会

主催 株式会社中川ケミカル

カタログ制作/株式会社中川ケミカルCSデザイン学生賞2004 2004年6月

編集・レイアウト/グラフィックデザイン社

表紙デザイン/永井造形研究所

